

「モアイの魅力」

RAPA-Nui (イースター島)は遠かった

(後編)

XR YJ CE Y/JA3IVU 北井 十生

1 宿泊と食事

宿泊したホテルは「Here Kapone」という名で日本人が経営しています。ベッドルーム2室、キッチン、シャワールーム、リビングとこじんまりした自炊をするものです。

食材はかなり先物を持ち込みましたがやはり現地調達しなければ足りません。アンテナを立てて運用できる状態して、毎日、毎朝、近くのスーパーマーケットと朝市へ順番に大串さんを中心に何人かが出かけます。

そのうち、毎日行くもので朝市のおばちゃんたちと顔見知りになり「まけてまけて」の値切り。スーパーではスペイン語で書かれていて何の肉かわからず。牛なら「モウモウ」豚なら「ブーブー」というようにジェスチャーをして買った。とにかく肉は全て冷凍されていて見た目は牛か豚か鶏かわからない。魚は青空で売っているがよくわからない種類ばかり。それでも買ってかえり炒めて食べた。

朝はコーヒーとトースト、サラダなど。昼はうどん、そば、スパゲティなどの麺類。夜は肉を使った料理。野菜のてんぷらなど。ごはんは炊飯器がないので鍋で炊いた。全て料理長は大串さん。サブに中出さんXYL。ほんと助かりました。というわけでこの2人の運用が他の4人より少ない。それでも中出さんXYLは128QS0しています。

2 ラパ・ヌイの観光

観光のメインはやはり「モアイ」。丸1日と朝からのご来光に全員で出かけました。

まず「アブ・パイフ」。本来は海を背に立っていたモアイが倒されています。その前に祭事場跡と舟を伏せたような住居跡がありました。

「アフ・アカハンガ」。ここは倒れ方があちこちで部族間の争いで倒し合いをしたのではないかとされている。この入り口には土産物屋さんが並んでいる。

「ラノ・ララク」。モアイの製造工場だったと言われているところ。岩山を削り掘り出し運び出す作りかけのモアイや展示場ではないと言われるようにあちこち山腹に埋もれている。

「アフ・トンガリキ」。日本のタダノクレーンが協力をして倒され、チリ地震で流されたモアイを修復したことで有名です。きっかけはMBSテレビの「世界ふしぎ発見」の番組で現地の方が「クレーンがあったら修復できるのに」とことばを同社の社員が見ていたことから始まったそうです。きれいに15体のモアイが並んでいます。

「アフ・テ・ピトクラ」と「テ・ピト・オ・テ・ヘヌア」

最も大きいモアイで10mほどあったらしい。1830年代には立っていたとフランス人が見たらしいです。「テ・ピト・オ・テ・ヘヌア」は「地球のヘソ」という意味、真ん中に磁気を帯びた丸い不思議な石があった。

「アナケナ・ビーチ」と「アフ・オウナウ」。島で数少ない砂浜があるビーチ。タダノのクレーン車もこの海岸からチリ海軍の上陸用舟艇で運ばれたそうです。ここにもモアイが立っている。

「アフ・コマリキ」と「アフ・タハイ」

島の中心地。ハンガロア村から歩いて見ることができるモアイで唯一、目が入っているモアイがある。



「アブ・パイフ」



「ラノ・ララク」

3 ラパ・ヌイの局

島からのサンセットを見ようと海岸に出かけたとき私たちの帽子をみて声をかけてきた。CE YHOホセさん。後日、強力な信号だと思ったらホセさんだった。



「アフ・トンガリキ」日本のタダノクレーンが協力

「アフ・テ・ピト・クラ」

4島であった日本人

「Here Kapone」の川口さんによると島には8人の日本人が住んでいるとのこと。旅行者はバックパッカーが多く私たちの宿にも訪問があった。そのうちの一人は沖縄の与那国島から来ている3ヶ月ほど南米各地を回る計画とのこと。



「アフ・コマリキ」

5 サンチャゴ

楽しかった島での運用・観光も終え、また5時間搭乗して、サンチャゴへ。ここで2日間の滞在予定。まず、重い荷物を空港で預け、身軽になってTANSVI Pというタクシーでホテルへ直行する。旧市街地の中心近くの「ベガス・ホテル」へ3階建てのこじんまりとした建物でした。市内観光は旧市街地の「アルマス広場」「市場」大きなマリア像の建つ「サンクリスバルの丘」へ



「バルハライン アセンソール」

6 チリアマチュア無線連盟(RCCH)

今回、たいへんお世話になった連盟本部へ。ホテルから歩いて約30分。上と地図をみながら行くとアンテナが見えた。行くとCE3RCG/CoyaさんとCE3PBT/Albertoさんが館内を案内してくださいました。館内には資料室、本部局CE3AA、非常用CE3ER、会議室などあり、階段には歴代の会長の写真が掲示していました。チリ先日本と同様に地震が多く、非常用の無線設備の充実と体制に力を入れているとのことでした。

7 バルハラソ

サンチャゴからバスで2時間ほどの港町 アセンソールという乗り物で丘の上へ行くとカフルな街並みがある。「港湾都市と歴史的な街並み」が世界遺産に登録されています。

サンチャゴのホテルからバルハラソまで行くのにまず地下鉄に乗るが切符を買ったらおつりを足りない。

宮川さんがつたないスペイン語で足りない足りないという切符売りの女性がシブシブ足りない分を渡す。



「チリ連盟 本部」 (photo by 中出)

バスターミナルに行くことこれまたたくさんの人と切符売り場とバス。売り場を探し、切符を確保してバスに乗る。日曜日だったので混んでいる。2時間ほどバルハラソに到着。帰りの切符を確保しないとということで売り場をあちこちやっと最終便を確保できた。

市内はすべて徒歩で アセンソールに乗って丘の上へ、のんびり写真を撮っているところは危ないよと近所の人たちが言うのですぐに下りた。

港めぐりの遊覧船に乗り、帰りにスーパーに寄るとガードマンが荷物に気を付けるように助言してくれた。



「アフ・トンガリキ」 (photo by 中出)

8 終わりに

今回の全QSO数は3900あまりですがモードはCW,SSB,RTTY,PSK,JT65 バンドは160mから6mまで運用したが、6mだけはQSO出来なかった。

・オペレーターは「ヘボ」・QSO数少ない・世界の恥さらしと言われながらも私たちはそれらにも動ぜず、初QSOという感謝の言葉頂き、世界中のあちこちから運用したいと考えています。

決してDXペディションではなく、観光を兼ねた運用であることから24時間、オールバンド、オールモードの運用ではありませんがなるべく運用できる時間を確保しようと努力はしています。

もうすでに、来年の候補地をさがしています。